

令和6年度

第1回 那須町総合教育会議 会議録

那須町教育委員会

## 令和6年度 第1回那須町総合教育会議録

令和6年6月13日13時30分から、令和6年度第1回那須町総合教育会議が開催され、その結果は次のとおりであります。

### 1 本会議の出席者は次のとおりであります。

#### 町長部局

町長	平山 幸宏
総務課長	池沢 秀勝
企画政策課長	鬼澤 努

#### 教育委員会

教育長	平久井好一
教育委員	菊地 厚子
教育委員	大森源一郎
教育委員	菊地 昭一
教育委員	金田裕美子
学校教育課長	島村 育男
生涯学習課長	人見 英樹
こども未来課長	渡邊 誠
学校教育課長補佐	赤羽根初美
学校教育課管理主事	安宅 伸太郎
学校教育課主任主査	佐藤 英樹

### 1 本会議の議事は次のとおりであります。

#### 協議事項

- (1) 那須町の学校の在り方検討について
- (2) その他

## 1 開 会

島村学校教育課長

定刻となりましたので、ただ今より令和6年度第1回那須町総合教育会議を開催いたします。会議の終了時刻は15時といたしますので、ご協力をお願いいたします。

はじめに、平山町長よりご挨拶をお願いいたします。

## 2 あいさつ（平山町長）

皆さん、こんにちは。

教育委員の皆様には日頃から、本町の教育行政の推進にご尽力を賜り感謝を申し上げます。

また、本日は令和6年度第1回那須町総合教育会議を開催したところ、ご多用にもかかわらず、ご出席をいただき誠にありがとうございます。

能登半島地震から6ヶ月が経過しました。被災地では、今も多くの方が避難所での生活を余儀なくされております。一刻も早く被災されました皆さまが、被災前の生活に戻れることを切に願っております。

さて、本町では、本年11月3日に町制施行70周年を迎えます。これを機に、改めて那須町への愛着向上と町内外への本町の魅力を発信するきっかけとなるよう、那須町のシンボルとして長期的に使用できるロゴマークとキャッチフレーズを募集したところです。36点ものご応募をいただき、町制施行70周年記念事業企画幹事会及び実行委員会において第1次、第2次選考を実施し、このたびロゴマークを決定いたしました。このロゴマークは、町の花りんどうがモチーフとなっており、中心に人を表した星形、花びらには自然や農業、温泉、生き物、歴史をイラストにし、全てが共存・調和する町が表現されています。

9月29日の那須九尾まつりにおいて、町制施行70周年の記念式典を行うなど、記念事業が盛りだくさんとなっておりますので、委員の皆さまにもご支援とご協力をいただきたくよろしくをお願いいたします。

本日は、那須町の学校の在り方検討について、忌憚のない意見交換を行いながら、町長部局と教育委員会が共通の認識をもって、那須町の教育をより良い方向に進めて行ければと思っておりますので、どうぞ、よろしくをお願いいたします。

島村学校教育課長

それでは、協議事項に移らせていただきます。

那須町総合教育会議設置要綱第4条第1項により、町長を議長として進めさせていただきます。

## 3 会議録の承認

議長：平山町長

それでは、本会議を主宰する立場から議長を務めさせていただきます。

円滑な議事運営に努めたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。  
はじめに、会議録の承認について学校教育課長より説明をお願いします。

島村学校教育課長

総合教育会議の会議録は、那須町総合教育会議設置要綱第7条において、公表することになっております。

昨年度第3回の総合教育会議の会議録について説明させていただき、公表について承認をいただきたくお願いいたします。

会議録に沿って説明

議長：平山町長

ありがとうございました。

ここで、5分程度、お時間を取りますので、会議録の内容についてご確認をお願いします。

～内容確認～

それでは、会議録について、ご意見やご質問などがございましたら、お願いいたします。

全出席者

ありません。

議長：平山町長

ご確認をいただきまして、ありがとうございました。

それでは、会議録について承認をいただけますか。

全出席者

承認

議長：平山町長

ありがとうございました。

#### 4 協議事項

それでは、(1)那須町の学校の在り方検討について、意見交換をさせていただきます。

まず始めに、平久井教育長より那須町の過去、現在、未来の教育について、お話をいただきます。

教育長からのお話をいただきましてから、皆さまからのご意見を頂戴したいと思います。

それでは、平久井教育長、どうぞよろしく申し上げます。

平久井教育長

これまでの那須町の教育、そして現在、これからについて私の思いの丈をお話させていただきます。その前に、教育委員の皆さまには、日頃から、那須町の教育について真剣に考え、しっかりと議論するために活発なご意見をいただけていることに感謝いたします。

私が現場にいる時によく感じたのは、全体的な点数のみで生徒や学校が比較されてしまうような感じを受けておりました。私が理科の教師として取り組んだ経験では、テスト対策ではその時だけで、そこで得た知識は長持ちせず、テストが終われば消えてしまう。他市町の教師の教え方が違うのか、那須町と何が違うのか考えましたが、何も変わらないことに気が付きました。ただ、子どもたちの置かれている環境が違うなどは思いました。親の意識が高い、近くに尊敬できる先輩がいる、そういった環境が違うのではないかと思いました。

教育長になった最初の一年は点数を上げることに躍起になっていましたが、ある時、点数を上げるだけが教育なのかなと自問することで、那須町だからこその教育を考え抜いて提供することが、自分の仕事だという思いに至ったわけでございます。

当時、那須町の大きな課題は適正配置で大変でしたが、これを機に那須町の教育の仕組みを変える大きなチャンスだとワクワクしたことを覚えております。

皆さんご存知のように合言葉、「縦に一貫教育、横にコミュニティ・スクール」これは紆余曲折、試行錯誤しながら出来たわけです。那須町ならではの仕組みを作ったことで地域の人たちは、「おらが学校」という誇りを持っています。誇りを持っていただいて、子どもたちの教育活動に関わっていただきたいし、子どもたちも地域の一員として地域のお祭りや行事に積極的に参加して欲しいと思いました。親と教師以外に地域の人たちとより良い人間関係を築いて欲しいです。そして地域の人たちの協力を得ながら、体験的な活動、本物に触れる体験をたくさん積んで欲しいと思えます。

一貫教育では、中学校校区ごとに、こんな大人に育って欲しいという思いを幼保小中の先生方、地域の人たちと共有しながら幼保小中が連携して教育にあたって欲しいと思えます。

また、那須町独自教科「NAiSU (ナイス) タイム」を教育過程に位置付けることによって、那須町ならではの大きな特色を持った教育ができるのではないかと感じました。

今の那須町の教育の基本となる仕組みは間違っていないと思えます。那須町だからこその教育の仕組みができたと思っています。他の自治体の子どもたちに比べて本物に触れたり、体験的なことが可能になったことで子どもたちの学びの動機付けに至っていると思えます。本物に触れて感じたこと学んだことを自分の言葉で発表できることは、主体的に逞しく生きる上で必要な資質能力だと思います。プレゼンフェスティバルの子どもたちの内容は、確実に那須町の目指す子どもの姿になってきています。

「おらが学校」という意識も高まり、学校を中心としたより良い地域づくりに繋がっていると認識しております。また、那須町幼保小中連絡協議会は、二つの中学校を中心とした幼保小中一貫教育に取り組み、これは栃木県をリードしております。よく校長先生方をお願い

していることは、子ども主体の学校づくり、子どもを真ん中に据えて、子どもたちの願いや思いを実現できる、学校や学級生活を自分たちの力でより良いものにしよう、していこうということが見られる学校経営です。各学校での取り組みが軌道に乗りつつあると感じています。そういう中で今の子どもたちが育つ環境はいかがでしょう。親も教師も何でもしてやりすぎのような気がします。子どもの側からすると日頃の生活がすべて指示命令で、自分で考えて行動に移すための学びの機会が失われている気がします。子育ての基本は自立した大人に育つことだと思います。その基本は自分で考え、行動すること、間違えたら貴重な学びと捉えさらに成長していくことだと思います。那須町の小中学校では、子ども主体の学校づくりに向けて様々なことが行われています。学校だよりもありますが、今回だっばラジオから発信することで、自信も得られるでしょうし、自分たちの思い、考え、地域に対して行ったことが学校や地域を変えられるんだという経験が、子どもたちの人生の中で大きな意味を持つと思っております。

これから那須町の教育を考える上で、すべて無にすることではないと私は思っています。この地域に出て本物に触れて、様々な体験を通して得られた知識というのは生きた知識になり、時間が経っても忘れないし、経験から得られた知識というのは、知恵になってくると思っています。少子化の進む那須町の教育の中で、むしろ少人数の方が一人一人の体験活動の時間と質の点では十分に上がると考えられます。適正配置ありきではなくて地域づくりにつながる取り組みを無くしてしまうのは、那須町にとってマイナスだと思います。大きな集団で活動したほうが効果的な場合は、スクールバスをフルに活用して教育活動を充実させる。その体験的な活動をもう一步進んだものとして、野木町の佐川野小学校のような実践的な取り組みが、那須町でも出来ればと思っています。

グローバルな視点は必要ですが、ローカルなこの地方の良さ、すばらしさを十分に認識して誇りに思えるような教育に取り組む必要があると思います。

現在、部活動の地域移行に向けての取り組みでは、総合型地域クラブを作りたいと考えております。これはスポーツだけでなく、日本の伝統文化、プログラミングも体験可能で、那須町の教育を大きく変える手段になると思います。ただ課題として、核となって取り組んでくれる人材がいるのかということです。

教育委員の皆さんも視察に行かれた、那須高原保育園の取り組みは、那須町の教育の目指すところで、現在の町立の保育園に、那須高原保育園の良いところをどう取り入れるか検討中です。

これから学習指導要領が変わります。一説によるとウェルビーイングという言葉が頻繁に出てくるとおられます。今までは、高い点数、良い高校、良い大学、それが幸せにつながると思われてきましたが、そうではないということです。何のために教育するのか、幸せになるためで、いい大学に入るためではない。それは手段であって、手段が目的になってしまったということです。幸せになるためには、自分の能力に合わせた、自分にだけ備わっている資質、能力を発見して伸ばせるような那須町の教育であってほしいと思います。

生涯学習課が取り組んでる親学習プログラムですが、これは栃木県のトップクラスだと思

っています。子育て支援講演会も始めましたが、保護者の意識を変えるためには、一朝一夕では難しいと感じております。それをを変えるには、民間の力を十分活用する必要もあると思います。

議長：平山町長

ありがとうございました。

それでは、ご意見、ご感想などがございましたら、お願いします。

大森委員

教育長さんの話を聞きまして、まったくその通りだと思います。以前に那須町を考える企画会議がありまして、教育委員の代表として出席した時に、那須町の教育で多くの人に町へ移住してもらえよう、那須町の教育を良くするんだというような話をした覚えがあります。その時に教育長さんは、ただいまご説明いただきましたことについて、意欲的に語られていました。その一つの例がどこの地区よりもいち早く、コミュニティ・スクールや学校運営協議会を立ち上げたり本当に良い体制づくりができたと思っています。もちろん学力をあげることは目的でして、暮らしやすい町づくりというところで、楽しく暮らせる町民を作り上げることが、一番大事なことだと思います。それは最終目的です。では、そのためにはどうしたらいいかということで、今も続いているんですが、教育長さんの熱意が、どんどん伝わってきて私は大変嬉しく思っています。でも、やはり教育だけでは人口は増やせないような気がします。小手先だけのような気がするんです。子育てしやすい町づくりとともに住みやすい町づくりを作っていかなければならないと思います。以前、花まる学習会の高濱先生がおいでになり、小学校の跡地を使って子どもたちをそこで教育したいという話がありましたが、いろんな条件があるのかもしれませんが、町の人口を増やす努力をするなら、飛びついてもいいような気がします。もう一つは、せっかく那須町独自の良い教育をしているのですから、那須町は観光業ですから、旅館の入口に那須町の素晴らしいポスターを貼るとか、町全体で那須町の良いところをアピールするとか何か努力が必要なのかなと思います。今日の新聞で、那須りんどう湖ファミリー牧場と那須ハイランドパークの社長が今後三年を見込んで、10%給料を上げると掲載されていました。それは単なる自分と職員だけでなく、そういったことで従業員が町に来やすくするというようなことも考えているのかと思い、これは非常に良いことだなと思います。

先程、野木町の話がでましたが、佐川野小学校は小規模特認校になってるんですね。単なる統廃合だけの問題ではなく、小規模校には小規模校の良さがあるわけですから、どんどん特認校にして、学習指導要領にとらわれない那須町独自の生きた授業をしてもらいたいと常々思っております。那須町を本当に考えると言ったら、その位のことをしなければいけないのかなと思います。

## 金田委員

先程、教育長のお話の中にもありましたが、那須町のこれからの教育を考えたときに、まずスタートラインに立たなければいけないことは、那須町でどんな子どもたちを育てたいかということだと思います。そこがブレてしまうと、この先のカリキュラム作りにも影響してくると思います。教育長がおっしゃっていた子ども真ん中教育という文言があったかと思いますが、これがまさに那須町を象徴する教育の特色の目玉になると私は思っています。

先日、那須高原保育園を視察させていただいて、そこでの取り組みを見てきました。そこはまさにこの子ども真ん中教育を実践していて、子どもたちが主体的に育っているという結果まで出しているんです。子ども真ん中教育とはどういう教育なのかと言った時に、認識教育をされてるんだそうです。その認識教育というのは、まず五感を使って自然の中に身を投じて、どのようなことで遊んだらいいかとか、そういうのをまず鍛えるという教育なんだそうです。ざっくりばらんに申し上げれば、その中で物事を見分けて本質を理解するというのが認識教育であるという、ここが那須高原保育園の肝になります。それを行うためにはリスクが伴うわけなんですけど、そのリスク面について、しっかりと保護者に納得していただいているところが、この園の方の大人としての覚悟もきちんと備わっていると思いました。ここでキーポイントとなるのは、その親教育についてですが、講演会の開催など、様々な取組みを行っておりますが那須町の親御さんはそこまで到達できていない、ならば那須町は、幼保小中一貫教育を行っておりますから、この保育園の段階から取り入れて、保護者の方も一緒に育っていただくということをしていけば、その先に素晴らしい先生方の講演会などによって、きちんと学び知識として備わっていくのではと思います。そういう面に対してでも、この子ども真ん中教育、認識教育というのはとても意義のあることではないかと思いました。何よりも文科省のガイドラインの中にも主体的な学び、個別最適な学び、協働的な学びの実現と明言されており、国の方針でもある、これを那須高原保育園は以前から実践しているということに、私は驚愕の事実としてびっくりしました。もし那須町の教育として導入した場合は、確実に文科省が育てたい人物像になっていくだろうというのがビジョンとして、私の中ではっきりと見えたところです。

那須町は独自の NAI SU タイムや防災教育、プログラミング教育に取り組んでいます。その中で子どもたちの課題解決能力がものすごく育ってきています。実感したのが、高久小学校の学校訪問での出来事でした。6年生の総合の時間に、那須町の観光についての課題と、それに対する解決の政策をしっかりと具体的に議論していて、発表までしていました。それは具体性を持った素晴らしいものでした。その教育を7、8年してきて、ここまで子どもたちは育ってきているんですね。

そこで野木町の小規模特認校のお話になるんですが、学校独自のチラシを作って配って、学校自体が営業活動をしている、これも素晴らしいなと思いました。他の学校にはない特色が強みとなっている一つだなと思いました。

主体性を育てる教育をするには、学校の中での実数というものが決まっていると思います。



それをどうにか工夫して取めなければいけない、そういう工夫をしている自治体が二例あるのでお話ししたいと思います。まず一つは、石川県の加賀市教育委員会が行っている伴走支援チームというシステムです。これは主体性の授業を先生方がどうしていいかわからないと言った時に、全国から元教員を公募して各クラスに配置をして、先生と一緒に伴走して授業指導案を作っていくという取り組みをしています。

もう一つは、山形県の天童市立天童中部小学校で、6年前から一斉授業8割主体性な学びを2割というカリキュラムに変えて続けてきました。ここでのメリットは不登校がゼロになったということです。デメリットは全国共通テストなどで、学力アップというところは顕著には見られていないようですが、不登校はゼロであった、これは6年間の中で大きな成果と言えると思います。子どもたちは先生役になって授業をしたり、テーマを決めて学びをしたり、そこでできない子に関しては、先生がファシリテーターになって寄り添って、その学びを支援していくことをしています。もうすでに主体的な学びをしている自治体は出てきています。那須町はこの主体的な学びをもう少しスピード感を持ってやれたらいいなと思います。

もう一つ、学校訪問に行ったら驚いたことは高久小学校で1年生のクラスが11人位で、少なくともはや学校のレベルを超えているなと思いました。そこでの資料の中に単一的な教育になってしまっていて、子どもたちは外部との交流、接触がなさすぎてコミュニケーション力が低下して自己肯定感が下がっているというのが現場の先生方の肌感なんです。佐川野小学校も小規模校ですので、そうならないように近隣校や海外の日本人学校等とオンライン交流授業をしています。私が何を言いたいかというと、お金をかけなくても工夫できることはたくさんあるということです。那須町にはナスコンパレーがあり、プログラミング教育をしています。子どもたちとの交流がなければ、早急に交流すべきだと思うし、支援していただけるように働きかけることも必要だと思います。

もう一つは、那須まちづくり広場は、地方創生、次世代形成にとっても成熟しているコミュニティの一つなんです。ここの方たちは那須町が素晴らしいということで移住されている方たちです。その方たちと交流させていただいたり、那須町のシンボルになるべくツリーハウスを作りたいとのことなので、協力して作り上げたら良いのではと議論をしたりもしています。このように支援をしたいという方たちもいる中で、とても素晴らしい人材がたくさんあると思います。

那須町にはハリウッド映画への音楽提供や、テレビ曲の音楽担当をされている雅楽と西洋音楽をミックスした作曲家がいらっしゃいます。那須温泉神社に雅楽があり、雅楽を担う世代がないということで、伝統芸能の危機でもあります。そんな方がせっかく那須町にいるのだから、雅楽をメインにした伝統芸能をグローバルな形で文化的に発信できるなと思います。那須町にはこんなにも宝があって点はたくさんある、あとは線でつなぐだけなんです。そこを町長に分かっていただきたいなと思います。チャンスはたくさんある、それが思いです。

議長：平山町長

ありがとうございます。

他にご意見などございましたら、お願いします。

菊地（厚）委員

那須町のこれからの教育というテーマだけで非常に大きくて、どこから手を出したらいいのか漠然と感じて、大きな社会変化が来ることも考えて教育ということを考えていかなければいけないなど考えると堂々巡りになってしまいます。でも一番大事なことは、那須町の子どもたちをどう育てたいのかというその核を作ることだと思います。那須町は小さい町なのに不登校が増えていることについて探って、今までの教育が社会現象として起きている。それは何か探りつつ改善する方向に持っていかないと、意味がないのではと考えて、今自分が勉強しているところです。みんなで共通理解を図れたら、那須町の育てたい子ども像がきちんと作れると考えています。

金田委員がおっしゃるように、那須町には良いものがたくさんあり、今ある資源、人材を結び付けて他の環境にはできない那須町の人づくりが出来たら、それは魅力になると考えています。その魅力を発信することで那須町に移住したいとなった時に受け皿が大事になってくる、協力隊で来ても住むところがないとか独身の方で来たいと思っても住むところがないと聞きます。今の若い人たちは家賃の高いものを望んでいるわけではなく、簡易的に住めるコンパクトな住宅で十分だと思います。空き家が増えている那須町の実情を考えると、教育だけではとどまらない町の問題にもつながっており、どういう森にしたいのか木ばかりではなく、どういう森を作りたいのかということを真剣に考えていくと、おのずと問題点を解決していけるような手がかりが出来てくると思います。

今、目の前に迫ってくる問題としては校舎が老朽化してきてしまっていることで、給食室がすごく問題があるというお話を聞いています。給食室をどうにかしようとする将来的に学校をどのような形にしていくのというところまで考えないといけなくて、慎重になりつつも前に進めなければならない状況が今なのかなと思います。みんなで真剣に考えて、那須町はどこを目指して頑張ろうとするのかについて形作っていきながら、教育も考えていく、町の共通理解を図ることが大事ですが、様々な問題が錯綜している中で一つの方向に簡単に決めてしまうのはすごく危険であると思っているし、様々な問題を考えつつ皆が持ち帰ってじっくり考えたり、また持ち寄りながら方向性を決めていくというのは、決して無駄ではないと思います。

菊地(昭)委員

自分の子どもの頃を思い出すと勉強は好きではありませんでした。どうして勉強するのかなど、自分は山仕事をするつもりでしたから、そういうものを学校ですればいいのにと子どもころ思っていました。学校で勉強したことは一つも役に立ってないと感じています。今、

子育てをしていますが、勉強は無駄なことだとは我が子には言えないです。学校に行きたくないと言える子どもは勇気があって、何か違う人たちか才能があるのかと思っています。学校に行きたくない子どもをなんとか学校に戻してあげようとかしないで、職人的なものを教える、町が職業訓練校ではないですが、手作業的なことも好きな子どもがいると思うんです。そういう子どもが那須町に来て、自分の世界に入って自分の技を極めていけるようなことができたらいいのかと思います。お年寄りの技とか知恵をマンツーマンで教えてもらえたらと思います。農業をやりたいとか土をいじりたいという子どもだっていると思うんです。小学生のうちからプロフェッショナルになっていいと、自分のことを考えた時そうだったら良かったのにとっています。

議長：平山町長

貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。

那須町の教育について、教育長からお話があった過去現在については、共通意識を持っていると思います。那須町の教育は、県内でもトップレベルのものに取り組んできていると思っていますし、どこに行ってもそのように発表させていただいております。

これからの未来ということでお話がありましたけれども、教育長から野木町の件、皆さんが行って意見交換していただいた件等報告をいただいております。野木町の町長、教育長ともお互い連携できないか相談しています。今回、野木町の佐川野小学校についても、教育長から報告をいただいて、目からウロコというものを学べたのは非常に大きかったと思います。野木町らしい特色ある教育に取り組んでいると思います。

私はいつも教育長の教育に対しての熱い思いを感じて知っておりますが、今日は特に教育委員の皆さまから、教育長以上の熱い思いを感じました。その中で同じ方向を向いていこうと、私も思っておりますし、教育長はじめ教育委員の皆さま、学校現場の先生の意見をお聞きして要望活動も行っています。

大森委員からの花まる学習会の高濱先生の教育の話ですが、高濱先生の思いを形にするためには行政だけではなく、大沢小学校の跡地を活用して事業展開を行うナスコンバレーなどの企業にも繋げて検討していけたらと思っています。

朝日小学校についてもやはり学校の跡地を利用していただいている、ここに対して良い方向にすべて向けていかなければと思っています。

特に今、那須町は皆さんが思っている以上に注目されております。高付加価値なインバウンド事業、全国で11箇所、関東の中では唯一、那須町周辺地域が一つです。これは、国内外から注目されております。企業の方たちには、やはり利益があってこそ行政への支援だったり、地域貢献していただけるのだと思います。

那須町では観光カリスマの山田圭一郎先生にアドバイスを得て、観光庁のお力をお借りして観光地域づくり法人(DMO)に向けて取り組んでいます。本来であれば候補DMOの登録後に、登録DMOとして認定されるのですが、那須町は法人計画や確立計画が整備されていることから登録DMOの認定をいただきました。この申請は観光協会が担当しており、協会で

は那須町からも職員を1人、足利銀行からも職員を1人派遣しております。

那須町は消滅の可能性のある自治体から唯一栃木県で一箇所だけ脱却ということになりました。なぜ脱却できたのかというと、若い人が住める場所づくり、新婚世代の住める場所づくりということで黒田原地区定住促進住宅ウィングビーナスの整備を進めたことも一因かと思えます。今後、さらに若い世代向けの住宅や働ける場所について検討する必要があると思えます。

那須町は高齢化率が43%を超えました。子育て世代の方々に住んでもらうには、働く場所も必要だと思っておりますが、魅力あるものを進めていかないといけない、そこにはやはり一番に教育だと思っております。教育を進めていく上で特例校も考えていくべきだと思います。参考になるものは否定することなく視察して検討していきたいと思えます。そしてなんといっても幸せ感ですね。ウェルビーイングそこに結び付けられる、ただあとは、観光地ならではの教育方針も見つけなければならぬと思えますので、しっかり力を入れていきたいと思えます。

金田委員からの子ども真ん中教育これは当然というか、良いことだなと思えます。子どもを中心にどう考えていくか、学校任せ、保育園任せでなく、保護者も一体となっていかなければならない。例えばPTAに入らない親が出てきている、それを認めざるを得ない状況もあります。親のためにPTAがあるわけではなく、何か問題や要望があった時に、子どもを守ることができる組織であると思えます。親が加入しない場合、PTAの方でなぜPTAのこの活動があってPTA会費を取ってもらってやるのか、卒業アルバムを作ることの経費にあてるだけではないということ子どもが大人になった時に、その親が子どもの責任を取れるのか、子どもを親にする教育も必要なんだと思えます。大人になって、またおじいちゃん、おばあちゃんになってからの教育までもするための教育のためのPTA活動ではないでしょうか。

先程、那須高原保育園を視察して皆さんが感銘を受けたとのお話を聞いて、私もぜひ行ってみたいと思えました。石川県や山形県にもいろいろな先進事例があるということを知りますので、那須町に合う教育があれば、真似して良いと思えます。新しいものだけでなく、真似から始まって、さらにその真似から次のものにバージョンアップできれば、私は教育委員の皆さまと同じ思いで町づくりをしていきたいと思っております。いろいろな家庭事情がある場合、子どもには辛い思いをさせないようにしようというのが行政であったり、教育委員会であったり、PTAであると思うので、その事情ではなくて、その子どもがみんなと同じ楽しい思い、また辛い思い、スポーツをして良かった思い、また怪我をして痛い思いとかも同じように分け隔てないように、そこも強くやっていきたいと思えます。

菊地(厚)委員がおっしゃられたように、私も常に勉強しています。教育は一生勉強だと思っておりますので、私もできるだけ皆さんの声を聞き、教えていただきながら取組んで行こうと思えますし、また那須町ならではの魅力を伝えていかなければならないと思う中で、やはりスピード感も必要ですが、スピード感ばかりではなく慌てなくても良いところもあると思えます。やはり教育の中ではこれだけ早いスピードでタブレット時代、携帯電話の時代、いろいろなものが子どもたちに入ってきていると思えますので、我々がじっくりと検討してい

かなければならないと思います。

ただ、建物に関しては待ったなしの状況です。給食室だけでなく、建物は傷んでくるので、常に調査をしながら検討しております。ただ、新たに建替えなくても済む、できるだけお金をかけなくて済む方向のものであれば先行投資しても手を加えていきたい、その思いで取組んで行こうと思っています。

那須町に生まれてくる子どもの数が昨年度は 49 名で本当にあっという間に減ってきています。以前、国会移転の話がありましたが、唯一、一番の候補地になったのが那須町です。国会でそれが凍結になっておりましたが、今また国では災害時のバックアップ機能として、注目されております。那須は安心安全に住める場所として、また教育に対しても特色ある教育のイメージをプラスして出していければ、どんどん人が増えてくると思います。消滅の可能性のある自治体から脱却だけでなく完全に先進地として取組んで行きます。

今回、全国観光地所在町村協議会の常任理事に上がらせていただきましたので、那須町の PR を更に強化していきます。また、二地域居住促進協議会の副会長を務めさせていただいております。二地域居住に関しては、那須町は別荘地があり、コロナ禍には、かなりの方々が引っ越されてきておりました。コロナ前の住所地に戻られた方もおりますが、最終的には那須に住んでいただきたい、その思いでトップセールスができていると思っていますので、ここに力を入れていきたいと思っています。

菊地委員からもありました子どもの頃の思いですが、人生楽しく生きていかななくてはならないと思うんですね。楽しく生きること常に笑顔でとにかく私は子どもたちが誰にでも挨拶できるとか、那須町の職員についても、自分から先に挨拶できる人、自分でいつも楽しく仕事をしようと思っております。これが職場においても風通しが良くなると思っています。社会に出てから、町の子どもたちがどう成長していくかを考えて時に、学問ではない学べることもあっていいと思います。学問だけに追われて、その子が楽しくなかったり、暗い思いをして人とも話せなくなったり、いくら学問、学歴また勉強が出来ても社会に出て、その子が一生良かったと思える人生をするため、菊地委員が言う通りいろいろなものに挑戦させることが必要だと思います。学問にこだわることはないのは、子どもたちだけでなく、私たち大人も同じだと思います。いかに楽しくいつも明るくしていることが残りの人生開けるんだろうと思うんです。やはり子どもから我々が学ぶものはいっぱいあると思うんです。子どもの方がいつも笑顔を見せてますし、生まれた子どもは教えなくても笑いますし嫌なことは泣きますが、大人は隠しますから。そういう赤ちゃんから学べるものはたくさんあると思いますし、初心に帰ると菊地委員のおっしゃることには大切な事が秘められていると思いますので、我々行政として、身をもって考えていかなければと思っています。

町長部局の方で何かありますか。

池沢課長

今日、二点ほど感じたもので、まず一つが少子化についてですが、行政は子育て環境、若い人を出来るだけ呼び込む、これは財政投資していかないといけないと思っています。ただ

毎年、子どもの数が過去最低出生率は下がり続けるとか、晩婚化とか、未婚率は上昇しているとか暗い話題が続いてますけど、ただ一方では結婚に魅力を感じないとか、結婚しても子どもを欲しいと思わないとか、そういう率も高くなってきているというデータもあります。行政としてはそういった少子化の背景なども同時に分析していかないといけないと感じています。もう一つが、学校、教育の関係ですね。自分で学生時代の思い出と聞かれたら、部活動、みんなで集まってスポーツ活動をしたとか、キャンプをしてみんなで食事を作ってワイワイ騒いで、そういう思い出が真っ先に浮かびます。やはり集団生活の楽しさというのものも、教育長がよく言われる豊かな体験、こういうものをしっかりやっていると大人になった時に社会に出て、当然会社は団体ですし、個人事業と言っても人と接しないことはないですから、豊かな体験というのは子どものうちから大人になっても生きてくるので、これは重要なかなと思ってます。ですから部活動の地域移行、これが成功するかどうかというのは大きいものかなと感じています。

#### 鬼澤課長

企画政策課として進めているナスコンバレーが、いよいよ今年度大沢小学校の改修に入りまして、ワーケーションやサテライトオフィスなど、地域の課題解決のために、いろいろなベンチャー企業などが、都会から那須に来ていただいて活動していくことになりましたので、いよいよスタートするのかと感じています。その会員の中である企業から、住宅において移設や災害時に避難所としても活用可能となるコンパクト住宅の導入について、事業提案がありました。今回は、残念ながら他自治体での導入に至ってしまいましたが、今後、町にとって有益なものについては、どんどん生かしていければと思っています。町では筒地地区に黒磯からの橋を架ける予定があります。那須街道からケーズデンキの通りに直接出られるようになります。そういった状況を見据えて、付近に若者や新婚世帯の住宅の計画を検討しています。菊地委員からありましたとおり、例えばプログラミングを学んでいる子どもが、参考書が英語だからプログラミングをやりたいから英語を学ぶとか、プロゴルファーになるために、その一つのツールに専念するなど、必要なものを学んでいくというのは、そういうことなんだなと思いました。中には学校に行けない子どももいましたけど、一つに集中して学んでいくというのも例としてあると感じています。

#### 議長：平山町長

皆さんの意見とこちらからも、皆さんにできるだけの思いとして答えさせていただいてますけど、ただ全然時間のないところで大変恐縮ですが、こういう機会は今回を始まりに行うべきだと思います。常に教育委員の皆さんと、同じ思いを持っていれば、今まで以上に教育は県内でトップレベルであることを証明していきながら、全国に発信していく思いで、私たちも皆さんと同じ熱い思いで頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。

いただきましたご意見等については、今後の那須町の学校の在り方検討に向けて参考とさせ

ていただきます。

それでは次の協議とさせていただきます。

次に(2)その他について、各課より何かありましたら、説明をお願いします。

学校教育課佐藤主任主査

児童、生徒数の推移について説明

議長：平山町長

ありがとうございました。

各課の方から何かありますか。

各課

・ありません。

議長：平山町長

委員の皆さんの方から何かありますか。

菊地(昭)委員

子どもが少ないからと、がっかりすることはないと思います。マイナスに考えるかプラスに考えるかで気持ちの持ち方が違うと思います。気持ちの持ち方で、暗くなるかならないかで前進の仕方が変わっていくんじゃないですか。人口が減っていくのは全世界的なものでしょう。もっと産まれている子どもたちに力を注ぎましょう。あともう一つなんですが、はなまる学習塾の件はどうなっているんでしょうか。

議長：平山町長

ここについては、もう少しいろいろと検討させていただかなければと思います。学校の跡地を利用したいとか、それに対しての維持費の問題など、いろいろなものを精査していかなければならないと思っております。予算規模がどのくらいなのか、財政とも相談していかなければならないですし、今までの学校跡地事業に関しましては、使用料や改修費等は借受ける団体の経費になっていますので、再度確認させていただきたいと思います。ナスコンバレーさんに参入していただくようになれば、全国でも有数の資金力を持っている会社がたくさんございますので、連携についても、教育長ともう少し詰めていければと思っております。

菊地(昭)委員

承知しました。

議長：平山町長

その他ありませんか。

全出席者

ありません。

議長：平山町長

無いようですので、以上で、議題に関する協議は終了いたします。

貴重なお時間をいただき、充実した会議となりましたことに、お礼を申し上げます。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。

それでは議長の任を解かせていただきます。

## 5 その他

島村学校教育課長

学校教育課からですが、11月に予定してました総合教育会議と教育委員会ですが、日程を変更させていただきましたので、ご承知おきをいただければと思います。

皆様から何かございますか。

全出席者

ありません。

島村学校教育課長

無ければ、これをもちまして協議事項はすべて終了させていただきます。

## 6 閉会

閉会にあたり、教育委員を代表して平久井教育長よりご挨拶をいただきます。

平久井教育長

本日はこれからの那須町の教育ということで、それぞれに熱い思いを語っていただき、ありがとうございました。また、町長からもお話をいただきまして、ありがとうございます。

自分の反省になりますが、前回の適正配置計画では、どういう子どもを育てたいかとの議論がなされた上での計画だったのかと疑問に思う点もありますので、今回は、教育委員のみなさんを含めてしっかりとした、たたき台作りを行うために、再度このような町長を交えてのお話の機会があれば良いなと思います。

適正配置ありきではなくて、広く那須町の教育というものを考えて、議論していければと思っています。今回も、熱い思いを聞かせていただいて、熱い、熟したたたき台ができそうだなと思っています。



本日は大変お忙しい中ありがとうございました。

島村学校教育課長

以上で令和6年度第1回那須町総合教育会議を閉会といたします。

本日はありがとうございました。

